

平成 24 年度 第 2 回 JSR 編集委員会議事録

日時：平成 24 年 7 月 8 日(日) 9:20 – 11:10

会場：東京国際フォーラム会議室 G503

出席者：平林 茂担当理事、川口善治委員長、青田洋一委員、赤澤 努委員、
寒竹 司委員、二階堂琢也委員、長谷 斉委員、長谷川和宏委員、松本守雄委員

議事

1. 担当理事と委員長の挨拶、参加者の自己紹介
平林担当理事、川口委員長からの挨拶と今後の活動方針についての説明があった。
参加者の自己紹介のあと、川口委員長が以下の議事について進行を務めた。
2. JSR 第 3 巻 9 号日本脊椎脊髄病学会特集号（推薦論文号）進捗状況
現在 8 編が採用、1 編が審査中である。
3. 契約ページ数について
CBR より、雑誌の契約ページ数の説明があった。各号の契約ページ数は 96 ページであるが、10 ページ増までは容認している。広告ページなどを除くと、実際、各学会が占有できるのは、そのうちの 70 ページ程度であり、論文数にして 16-17 編である。
4. JSR 第 4 巻 1 号・2 号原稿依頼について
第 41 回日本脊椎脊髄病学会教育研修講演の 4 名の先生に依頼し、3 名から受諾あり、投稿待ち論文を加えて掲載予定である。JSR 第 4 巻 2 号英文原著号は、第 41 回日本脊椎脊髄病学会の上位演題リストから 24 名に依頼し、7 名から受諾、12 名から投稿辞退の返答があった。
5. 査読状況について
2012 年 7 月現在、受理され、掲載待ちの論文が 12 編、審査中の論文が 16 編ある。
2011 年の投稿論文採用状況は、依頼原稿を除く投稿論文数が 30 編、採用率は約 50%であった。採用の基準を厳しくしすぎると、アクセプトされる論文が減り、結果として投稿される論文数が減り、逆に、採用の基準を下げると掲載待ちの論文が増える、クオリティが低下するなどの問題が生じる可能性があることが指摘された。
日本脊椎・脊髄神経手術手技学会では、以前は、25-26 編を採用していたが、現在

は、採用論文を減らすように努めている。1編のページ数を3ページに減らすなど対応しているが、本来であれば、学会の特性上、図や写真を多用したいが、できない状況であるとの問題点が挙げられた。

JSR 雑誌の予算は理事会ではどのように考えられているかとの質問があった。平林担当理事から、現段階では決められた予算内で運営せざるをえないが、財政状況を見て今後理事会で検討してもらい、また、各学会の財政状況が各号のページ数にばらつきを生じさせる大きな要因となることがあってはならず、ページ数をほぼ統一する必要があるとの指摘があった。

日本脊椎インストゥルメンテーション学会では、財政状況とクオリティのバランスから掲載論文を調整することが可能にするために、査読評価をスコア化して採用基準を決定するように工夫しているとの報告があった。

日本側弯症学会より、超過頁については、著者が1ページにつき、15,000円負担することになっているが、その収入はどこに入るのかについて質問があった。超過頁の徴収金は、各学会に入るので、徴収するかどうかの判断は、各学会で決定して構わないとの返答がJSR事務局よりあった。現段階では、各学会で工夫して、採用率を下げる、図表を小さくして、ページ数を減らすなどの対策が挙げられた。

6. 新査読委員について

新査読委員の選出について川口委員長から報告があった。昨年までは、査読委員は30名前後で、主査は編集委員、副査は査読委員が担当していた。今回は、各委員の負担を考慮して、42名を査読委員に選出した。今後は、主査を査読委員にも担当してもらい、まずは、以前に主査の経験のある委員を中心に主査を依頼することで意見が一致した。それに伴い、JSR 審査要領の文言を「主査および副査は、編集委員および査読委員から選任する」と変更する。

7. 査読方法、「倫理性」について

日本脊椎インストゥルメンテーション学会で使用している論文審査用紙には、論文の採否の判定基準を明確にするため、奇数に限定した総合評価スコアの項目を加えている。今後、JSRでも、偶数の得点も加えた同様の方法を導入し、総合評価の次に総合評価スコアを設けることになった。

論文審査用紙の「倫理性」の項目についての再検討の提案があった。「動物実験」、「組織の採取」、「薬剤」の項目では、「不必要」の選択肢を入れることになった。

「インフォームドコンセント」についての項目は、現在どのジャーナルでも重要視されており、JSRでも将来的には、レトロスペクティブスタディを含め、著者の施

設での倫理委員会の承諾を得ていることを確認することが必要になる。一定の周知期間を設けて、将来的に投稿規定に掲載する必要がある。

「著作権の侵害」については、実際に査読者が判断するのは難しいため、著作権に関する同意書の中に、「同意書の提出をもって、著者の責任のもとに著作権の侵害はないものと判断する」との意味の文言を入れることになった。

8. 第4巻広告募集

広告掲載料金は、例年通りの額で今後も契約をすすめることとなった。直ちに JSR 事務局から各企業に広告掲載の依頼状を送り、10月の次回の委員会で、企業の広告掲載受け入れ状況を確認したあと、昨年同様、各委員から企業に対してさらに働きかけを依頼する予定である。

9. その他

・ダブルパブリケーションについて

JSR に和文論文が載った後に、症例数を増やすなどして英文に投稿する場合には、その投稿論文を提出してもらい、最終的に編集委員長が許可する。

・利益相反について

利益相反について早急に書式と投稿規定を設定する必要がある。他学会の書式を参考にする。

・今後の JSR の位置づけについて

英語のケースレポートを多めに採用して、英文誌にシフトさせていくような方向性を検討していきたい。一方では、従来どおり、各学会の独自性も維持していく。JOS に掲載される脊椎関連の英語論文との整合性も重要である。

・オンライン化について

オンライン化へのタイムテーブルを作成して、検討していく。紙ベースとオンラインの併用となると、費用がこれまで以上に必要となるなど問題がある。

・今後の JSR 編集委員会について

年間の計画としては、日本整形外科学会基礎学会、日本脊椎脊髄病学会の際に委員会を開催する予定である。

次回の委員会は、日本整形外科学会基礎学会会期中の10月26日7:00～開催予定とする。次々回は、第42回日本脊椎脊髄病学会（沖縄）の会期中に開催予定とする。

以上について合意され、閉会となった。